

【奨励賞】

「SDGs ホテル」の提言 —地方創生における分散型ホテルへの投資の可能性と その地理的文脈—

東洋大学 法学部

遠藤 唯萌

〃

岡野 愛

（要旨）

地方では空き家対策や交流人口の確保、災害対応等が求められている。この対応のため、宿泊施設の供給を見直し、自律的好循環社会を目指すべきと考える。この点、地理情報システム（GIS）の分析では宿泊業の駅近集中が指摘されており、駅近ではなく空き家等地域を交流人口により面的に活性化する必要がある。

本論文では、SDGs ホテル（分散型ホテルによる地域への責任ある投資）を提案する。宿泊、飲食、浴場等の設備や施設が地域に分散するホテルであり、街一帯を宿泊施設とするものである。また、各地の需要に応じ、施設をテレワーク利用あるいは避難所に転用する等、客室供給・配分を柔軟に変更することとする。さらに、こうした施設への投資決定に際し、GISで投資環境を可視化し、非財務情報と活用することも提案する。

なお、これら提案は、札幌市郊外の北広島市からサポートを得て、同市における土地活用やボールパーク誘致を事例分析したことに基づいている。